

遠隔は逃げの一手？

～前向きな選択肢としての遠隔授業の在り方～

八木・東山・陳・尾関・久保

それぞれの長所・短所を比べる

	対面	遠隔
長所	<ul style="list-style-type: none">・学生間、教員と学生間ともに、コミュニケーションが取りやすい・関係性の構築がしやすい	<ul style="list-style-type: none">・時間と場所が自由・各自のペースでの学習が可能
短所	<ul style="list-style-type: none">・時間と場所の拘束が多い・気候や災害の影響を受けやすい	<ul style="list-style-type: none">・受講者の対応が異なると不便・モチベーションが統一できない

- 対面と遠隔とが意図された線で繋がった「**効果的な共存**」ではなく、**ばらばらに混在している**状況



- 効果的な活用となっていないために、「**楽だからとる**」となり得てしまい、学生間のモチベーションに差が生まれる。
- 効果的な活用となっていないために、学生個人の中でもモチベーションアップにつながらず**ドロップアウト**してしまうことも。
- **質の揃った授業の提供が困難**

よりよい授業形態に向けた提案

〈提案に通底する考え〉

1. 15回全てが遠隔ないし対面である必要はない
▶ 予め対面の時間と遠隔の時間を指定できる
2. 全員が遠隔ないし対面である必要はない
▶ 対面のグループ。遠隔のグループを作ることもできる。講師の対面・遠隔も使い分けられる。



それぞれの長所短所を活かし、
「目的に応じて」設定する授業

つまり…

- 「対面ができないから」「面倒だから」等の消極的選択ではなく、「**遠隔だからこそできる**」を実現する「**目的を持った**」授業スタイル

「遠隔」はどこまで自由か？—対面/遠隔共存のために変えられる要素—

これからの「遠隔」① 複数人での受講を指定する

回によって授業形態を変える/選択制にする

例) 最初の数回は対面、そこでグループを指定。
→遠隔の回はグループ単位で受けることにする。

▶活用方法

各班に取材先を設定し、取材先からライブ配信形式で発表するなど。



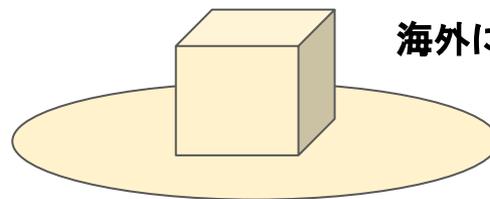
「遠隔」はどこまで自由か？—対面/遠隔共存のために変えられる要素—

これからの「遠隔」②

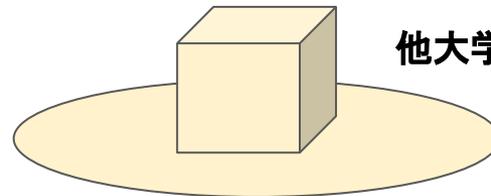


全寮制・中継的授業のように、
学生が同じ場所において、
先生の側を遠隔にすることもできる。

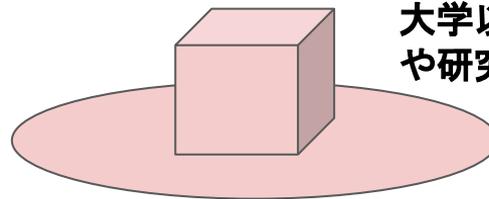
学生集団を統制する



海外にいる先生



他大学にいる先生



大学以外の施設(博物館
や研究所)、野外、など

提案内容の課題点・今後の予想される問題点

● これまで見えてこなかった、個別的な配慮の必要

- ・感覚過敏でPCの画面、音声を視聴することがつらい
- ・学校という構造化された場所がないと、予定の管理ができず授業に出席、課題の提出が困難など、これまでの社会環境では顕在化しなかった「障がい」への対処、事前的改善処置

[参考\)関西大学 学生相談・支援センター 障害のある学生に対する修学支援](#)

[参考\)筑波大学 発達障害学生支援の基本的な考え方](#)

● 施設使用に関するルールの共有

- ・主担当教員が教室にいない状態(院生などが)で教室貸与、zoomを繋ぐなどが可能か？
- ・学生への端末の貸出など

ご清聴ありがとうございました